

新基地建設反対名護共同センターニュース

日本、米国、沖縄で民主主義の違いは？



帰国したデニー知事と握手する渡久地修共産党県議団長(上) 県民に迎えらるるデニー知事(右)



辺野古新基地建設反対を訴えるため訪米していた玉城デニー知事が18日、沖縄に到着しました。那覇空港には「オール沖縄」の呼びかけで約70人の県民が拍手で知事を迎えました。デニー知事は「日本の民主主義と米国の民主主義、沖縄の民主主義の違いは何か、米政府に聞いたら何も言えない。『民主主義にバリエーションがあるの。ちがうでしょ』とはっきり言いました」と強調。「私たちはこの高い壁、ワシントンの壁を取り払う力が一つになっているので、必ず実現できると思います」と報告しました。「沖縄の風」の糸数慶子参院議員、日本共産党の渡久地修県議が挨拶。渡久地氏は「県民にとって大変勇気の出る訪米だった」と語りました。

玉城氏支持の署名1000人を超える

沖縄タイムスは19日付で、「訪米前に海外のウチナーンチュが発表した玉城氏支持の署名は18日時点で千人を超えた」とし、ニューヨーク大での講演で司会を務めた県系2世の島袋まりあ准教授が「今後のアプローチ次第で米国で支持が拡大する可能性」を指摘したと報道しました。

デニー知事帰国「米の高い壁、取り払える」

緊急シンポジウム「埋め立ての闘い」

辺野古訴訟支援研究会は16日、「埋め立て訴訟のたたかひの現段階と展望」と題しシンポジウムを那覇市内で開催しました。「オール沖縄会議」が後援し、紙野健二名古屋大学名誉教授と白藤博行専修大学教授が報告しました。

紙野氏は「安倍政権のやり方は法治国家とは違う。県民は闘いの成果をグローバル世界に発信しましょう」と訴え、白藤氏は「国は私人と言い張って行政不服審査法を使って国交省に意義を申し立てた。県民も国を訴えるべきだ」と報告しました。



シンポで報告する紙野氏(左)と白藤氏

やんばるで「うたいのーし さびら」

日本共産党北部地区委員会と後援会は17日、「うたいのーし さびら」と称し市議会議員選挙から知事選、那覇市長選での「ご苦労さん会」を名護市内で開きました。稲嶺進前名護市長、赤嶺政賢衆院議員はじめ、やんばる地域一帯から60人余が参加しました。

名護市長選を教訓に県民が奮起

稲嶺氏や赤嶺氏が「2月の名護市長選は残念だったが、安倍政権が尋常でない不当なやり方で選挙介入したことに県民が危機感をもち知事選や那覇市長選などで発奮し、デニー知事の誕生や城間幹子那覇市長の勝利などにつながった」と挨拶。来年の衆院3区補選と参院選挙でも「オール沖縄」を勝利させよう、と決意を固めました。

やんばるには文化人が多くテナーサックスの独奏を皮切りに大宜味村の女性たちの踊りやギター演奏などもあり、楽しいひと時を交流し、英気を養いました。



ギター演奏する伊佐真次東村議(右)と安次嶺雪音さん